

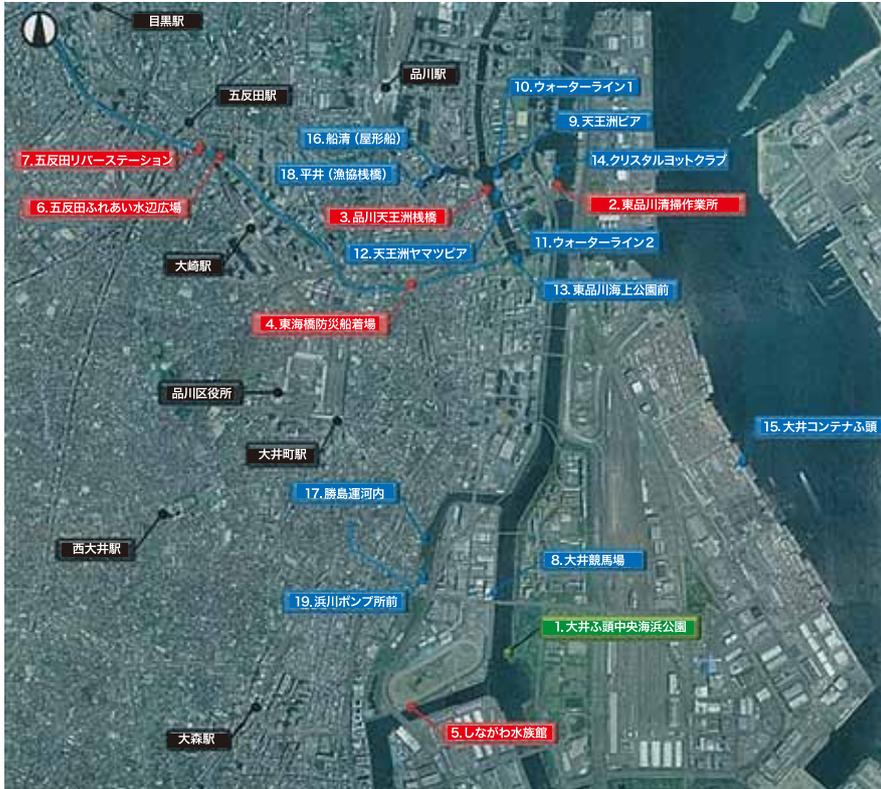
ちょっといい話

会社というのは一人の力で成り立つものではなく、トップは部下を信頼し、任せるべきは任せねばならない。すべてはそれに尽きる。人は自分で育つもの。まず後継者をきちんとポストにつけなければ、育つわけがない。(元トリンプインターナショナルジャパン社長・吉越浩一郎さん)

ラグビーで一番価値あるプレーは、最初にボールを持って敵陣に突っ込み、自分はぐじゃぐじゃに踏みつけられながら、歯を食いしばって味方に生きたボールを出すプレー。トライを決めるのは別の人だけど、スポットライトに隠れた「一隅を照らす」働きを大事にしないと、組織風土はいびつなものになりますな。(西武ホールディングス社長・後藤高志さん)

品川区の棧橋や船着場について

以前もレポートしましたが、現在、東京湾での舟運ルートの開発が進められています。建設委員会では、舟運を災害時にどのように活用するか面から調査をしています。船を活用するには、棧橋や船着場のハード整備が欠かせませんね。区内には19箇所ありました。



No	管理者	名称
1.	東京都	大井ふ頭中央海浜公園
2.	品川区	東品川清掃作業所
3.	品川区	品川天王洲棧橋
4.	品川区	東海橋防災船着場
5.	品川区	しながわ水族館
6.	品川区	五反田ふれあい水辺広場
7.	品川区	(計画)五反田バーステーション
8.	組合	大井競馬場
9.	民間	天王洲ピア
10.	民間	ウォーターライン1
11.	民間	ウォーターライン2
12.	民間	天王洲ヤマツピア
13.	NPO	東品川海上公園前
14.	民間	クリスタルヨットクラブ
15.	民間	大井コンテナふ頭
16.	民間	船清(屋形船)
17.	民間	勝島運河内
18.	民間	平井(漁協棧橋)
19.	NPO	浜川ポンプ所前

その他、品川浦・天王洲には、上記含め13箇所の民間施設があり、災害時に使用できるよう区と協定が結ばれています。

災害時に、棧橋等を利活用し舟運を活かす、といっても例えば救援物資は、区外・都外から運ばれてきます。従って、東京湾に接する区との調整も含め、東京都が全体をコントロールすることが必要になってきます。

都建設局が「防災船着場整備計画」、都港湾局が「東京港防災船着場整備計画」をつくっています。それぞれ、陸上、海上の面からつくられていますが、同じような内容の計画が二つ存在するという説明で、役所らしいといえらしいですね。そこで、一本化された「東京港防災船着場・災害時の運用マニュアル」を策定するそうです。検討会には、品川区をはじめ沿岸隣接区も参加しています。マニュアルは、今年度中に策定され、これを基に品川区は「地震時における水上輸送計画」を作成していきます。



ワシながわクワクワ新聞 第118号

発行日:
平成28年9月1日(木)
発行者:
若林ひろき 品川区議会議員
ブログ:
<http://ameblo.jp/wakabayashi-hiroki/>



五反田文化センターが50周年
設立50周年を記念して、9月10日(土)、11日(日)の二日間、9つの記念行事・事業が開催されます。宇宙飛行士・山崎直子さんの講演の他、「月の石」展示、プラネタリウム特別プログラム、月観測会など。また「JAXA公式グッズの販売」なども行われます。詳しい内容は、広報8月1日号、区ホームページで確認してください。



私の本棚

「一流の人は本気で怒る」(小宮一麿/文芸新書) その5

主要60カ国で、過去二千年間に名目GDPが伸びていない国は日本だけ。なぜか私はひとつの仮説を持っています。90年代初頭は、戦前の教育をきちんと受けた人たちが、政財界から引退していった時期とほぼ一致する。それ以降の日本には「正しい考え方」を持ったリーダーが極端に少なくなった。それが大きな理由のように思えるのです。政治の世界も同様です。換言すれば、現在、経済や政治を率いている人たちには、「正しい考え方」を十分に学んでいない人が少なくないということ。リーダーとしての心構えや、覚悟の決め方を学んでいないのです。首相はコロコロ代わる。お母さんから毎月1500万円もお小遣いをもらっていた人、原発事故の時「自分は専門家だから」とフコポコ出かけて行って現場に大変な迷惑をかけた人、自分に都合のよい、訳のわからないことを言う人ばかり……。リーダーとしての生き方を十分に勉強していないため、短期間で辞める羽目になるだけならまだしも、国民に多大な迷惑をかけるのです。これは国にとってゆゆしき問題です。私は、経営者に「論語」や「老子」、あるいは聖書や仏教書などの古典を読んでもらいたい、とお願いしています。(つづく)